

第三回委員会後の主な状況と事務局評価について

作成：委員会事務局（核物質防護モニタリング室）

委員会の重点確認項目	第三回委員会後の主な状況と事務局評価
<p style="text-align: center;">視点①</p> <p>発電所で働く人・組織の連携</p>	<p>✓ 【事務局評価】継続確認</p> <p>1. 発電所の主な取組</p> <p>1-1 班長対話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実作業現場にてキーマンである「班長」と、作業の留意点や作業されている方々とのコミュニケーション方法等について対話。当社からは、人身災害やヒューマンエラー防止などの期待事項を伝達。 ・ 対話で頂いた要望事項や困りごとは随時フィードバック。即時解決が困難なものは検討状況を伝達。また、「セキュリティ面を含め、ルールが多いことでの働きにくさ」を少しでも緩和できるよう、申請書類の削減策などを検討中。 <p>1-2 現場ワイガヤレビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 至近に発生した人身災害やヒューマンエラー事例を対象に、当事者（企業）だけでなく他の協力企業も参加し、現場でワイガヤレビューを実施。机上ではなく、現場において様々な視点から意見交換を行うことで、事例を自分事化し、類似災害・ヒューマンエラーの防止を図る。なお、今年度は特に災害発生が多いことから、過去事例などに対する現場ワイガヤレビューの拡大展開も検討。 ・ そこで得られた知見を活かし、作業にかかわるすべての人が現場での安全行動を徹底し、パフォーマンス向上につなげられるよう、当社協力企業のチームアップの在り方を追求していく。 <p>1-3 発電所で働く意義・責任に関する発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発電所で働く意義・責任について、ワンボイス活動の中で、各管理職から発電所員及び協力企業の方々に発信。また、発電所で働く意義を記載した「稲垣所長からのお手紙」を配布。協力企業の方々からは、「手紙をもらったことで、発電所で仕事をする責任を感じた」「エネルギーのまちであることが感じられ、電力を支え、エネルギーを支えることをやっていきたいと再認識した」等の声もあり、引き続き、「電力供給の安定化の前提となる原子力安全への貢献」など、発電所で働くことの意義・責任を様々な形で継続的にお伝えしていく。 ・ 意識定着を図るためにも、面的な働きかけを継続的に実施していく（例：手段を変えた定期的な発信、転入者研修における伝達など）。 <p>1-4 パートナーシップ会議・ワンボイス活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所員や協力企業の方々からの意見・要望への対応は、対応内容を主要な協力企業の所長とともにパートナーシップ会議で議論。より分かり易い回答になるよう取組み中。 ・ カウンターパート活動では、一次請け・二次請けといった方々も参加する元請協力企業の朝礼にも同席し、セキュリティに関するルールや発電所を取り巻く状況などを毎月ワンボイスで発信。 ・ ワンボイスが、実際に作業されている方々まで浸透しているか、「班長対話」等を通じて確認していく。 <p>2. 核物質防護モニタリング室の主な観察結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未許可のボンベ・スマートフォンの持ち込み事案が発生したが、この不適合事案を踏まえ、物品確認方法の改善や、巡視時の警戒行動の実践等、『脅威は実際に存在する』を基本とした警備が厳格に行われている。引き続き、『脅威は実際に存在する』意識の浸透と実践への絶え間ない取り組みが必要。さらに、警備される側（発電所で働く全ての人々）にも『脅威が実際に存在する』ことへの理解・浸透が必要。 ・ セキュリティに係る各種運用変更等の周知が、一定の期間を設けて、書面・直接伝達等多様な手段で実施されている。その結果、大きな混乱なく変更が行われている。“伝わる”ことを確実にする周知活動の継続が必要。 ・ パートナーシップ会議への投稿に対する回答は、“文章による回答”から、“短文で絵を使った回答”に変化しており、投稿者に対して分かりやすい（伝わりやすい）形になっている。 <p>3. 委員会の主な観察結果（分科会等での観察結果とご意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝礼、意見交換会、TBM-KY、班長対話、ワイガヤは、皆が参加する形で、双方向のコミュニケーションの場としてよい取組み。 ・ Aゲートでの入定確認の際、100%の入域者がIDカードを顔の横に掲示できるようになっていたのは大きな改善。 ・ この発電所で働く意義を的確に理解している班長がいた。このような班長が増えていくことを期待。 ・ 「情報のラストワンマイル」は難しく、より「ワンボイス」を進化させていくことが必要。

<p style="text-align: center;">視点② セキュリティとセーフティの 調和（共存）</p>	<p>➤ 【事務局評価】継続確認</p> <p>1. 発電所の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入構者のセキュリティに関わる事象について、「うっかり」であっても発生事案の CR を起票し、当事者自らの改善を促すべく、CR のオーナーを当事者の主管部門とする運用に変更。 ・ セキュリティ事案を想定した訓練を計画、セキュリティ部門だけでなく、運転・保全部門等、発電所の関係部署が参加し、事象の進展に応じた対応ができるよう訓練を開始。 <p>2. 核物質防護モニタリング室の主な観察結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CR を起点にした改善により、「うっかり」による未申請物品の持ち込み等を検知できており、厳格に警備が実践されている。 ・ セキュリティ事案を想定した訓練では、セキュリティ事案を自分事として捉え、セキュリティ部門だけでなく発電所全体で対応にあたっていた。 <p>3. 委員会の主な観察結果（分科会等での観察結果とご意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全文化醸成の活動は様々行われている。これらの活動結果を、委員会としてモニタリング等を通じ今後とも確認していく。 ・ 車両ゲート点検は、厳格に行われているが、もっと合理的にできるのではないか。その合理化は、東電と発電所内で仕事をしようとする方々にとってもプラスになるはず。もっと積極的に検討すべき課題ではないだろうか。まだ改善すべき点があるのではないか。
<p style="text-align: center;">視点③ 地域内外との コミュニケーション</p>	<p>➤ 【事務局評価】継続確認</p> <p>0. 第二回委員会での提言事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイレントマジョリティーとの接点創出を検討してほしい。東電が伝えたいことではなく、相手が知りたいことを伝えるべき。（第 2 回提言） ・ 一対一での対話は非常に大事。批判的な意見を述べる方々も冷静でいろんな情報を持っている。一面だけを見ずに色々な側面から対話すること。（第 2 回提言） ・ 地域の視点、外からの視点が欠けてしまいがち。伝えたいことを伝えるだけでなく、伝わっているかどうかまで確認する必要があり、具体的な対応を考えてほしい。（第 2 回提言） <p>1. 発電所（&新潟本部）の主な取組</p> <p>1-1 「地域の皆さまの知りたいこと」にお答えする取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションブースにおいて、「地域の皆さまの知りたいこと」を踏まえた重点訴求ポイントを設定。地域の方々の知りたいことや理解度に応じて、説明順・説明の濃淡を変えつつもワンボイスで対応。加えて、各種広報媒体（ニュースアトム、YouTube、Instagram 等）でも展開。動画では、所員の日常が見えるものを配信。 ・ 今後は、「地域の皆さまの知りたいこと」をインタビュー形式で、社員がダイレクトにお答えする動画等を作成予定。 <p>1-2 これまでお伝えできていなかった層へのアプローチ拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県域で web 広告やラジオ CM、チラシの新聞折込みを展開中。更に広げていくため、各種 web 広告（YouTube・Instagram の広告配信など）の強化や、原子力発電所に興味がない方でも足を運んでみたいと思えるイベントを検討。 <p>2. 委員会の主な観察結果（分科会等での観察結果とご意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域からの理解と信頼が得られるように、引き続き活動を進めることが重要。（第 3 回提言） ・ 経営層や本社が新潟とどう向き合っているのか見えてこなかったが、最近では改善。このような変化・改善は、住民側にも何故変えようとしているかとともに伝わると良い。（第 3 回提言） ・ 地域住民が持っている情報は、それぞれの立ち位置で違う。引き続き情報提供にあたっては、相手が何を求めどう捉えるのかを考慮しながら行う必要がある。